

2016年（平成28年）度
矯正施設被収容者処遇関連情報の管理及び生活維持管理
業務・システム最適化実施評価報告書

2018年（平成30年）3月22日
法務省情報化推進会議決定

1. 矯正施設被収容者処遇関連情報の管理及び生活維持管理業務・システムの概要

項目	内容
個別管理組織担当課室名	法務省矯正局総務課
府省全体管理組織 担当課室名	法務省大臣官房秘書課情報管理室
評価期間	2016年4月1日～2017年3月31日
最適化工程の段階	運用段階

2. 運用段階における評価
システム構成の集約化及び統合化

（最適化の実施内容）

現有システムは、回線容量が比較的狭い法務省NWのインフラを利用していることから、各拠点にサーバを分散配置させ、また、各システムはクライアント・サーバ方式を採用している。

そのため、サーバの関連経費を必要とし、システム要員ではない各拠点の職員が業務の合間にサーバ運用を行うなど、運用管理面の負荷があることから、サーバ関連経費の削減及び運用管理負荷の軽減のため、全国約300拠点のサーバを東日本及び西日本の2拠点に物理的に集約した上で、仮想化技術を用いてサーバ台数を削減するとともに、業務システムのデータベースの集約化を行う。

これにより、年間約54,000千円の経費節減が可能となる。

なお、平成26年7月、サーバ集約化に伴う機器等の調達を行ったところ、サーバ借料が年間約53,000千円となったことから、最終的に年間約152,000千円の経費節減が見込まれる。

（最適化の実施状況）

2012年（平成24年）度を実施した「矯正局におけるサーバ集約化及びシステム統合化に向けた調査分析」に基づき、集約するサーバ機器（以下「集約サーバ機器」という。）の調達、各拠点に分散配置しているサーバ機器から業務アプリケーション及び保存しているデータの集約サーバ機器への移行を、2014年（平成26年）度から2015年（平成27年）度にかけて実施した。

2016年（平成28年）度は、2015年（平成27年）度までに実施した東西の集約センターへのサーバの集約を踏まえ、集約サーバの運用を行った。

【最適化実施の評価】

○課題及び問題とその原因

なし

○対策

なし

3. 調達関係

なし

4. 最適化の効果の評価（最適化効果指標の目標値に対する達成度の評価）

（1）最適化共通効果指標

① 削減経費

ア 生活維持管理業務・システムの最適化

領置物品管理システム（生活維持管理業務・システム）については、目標値 11,527 千円に対して実績値は 14,711 千円であり、目標を達成している。

イ 図書管理システム及び医薬品管理システムの廃止

当該システムの廃止については、目標値 10,829 千円に対して実績値 10,829 千円であり、目標を達成している。

ウ サーバ集約化

サーバ集約化については、目標値 53,874 千円に対して実績値 152,335 千円であり、目標を達成している。

② 削減業務処理時間

生活維持管理業務・システムの最適化

領置物品管理システムの運用開始に伴い、2008 年（平成 20 年）度以降、業務処理時間が目標値年 1,400 時間に対して実績値年 1,400 時間削減され、目標を達成している。

（2）最適化個別効果指標

願箋の電子化率について、願箋の電子化にかかる最適化計画の内容を再検討した結果、サーバ関連経費の削減及び運用管理負荷の軽減を図るため、ネットワーク構成を見直し、サーバの集約化や各システムの統合化実施によるシステム構成が変更になる等、当初の開発条件と異なるため、本計画は実施しないこととした。

5. 最適化実施の総合評価

サーバ集約化の効果が発現したことにより、最適化共通効果指標のうち、削減経費について、全ての目標値を達成していることを評価する。また、これによって、全ての最適化効果指標の目標値を達成していると評価する。

6. その他

なし

7. 添付書類

最適化効果指標・サービス指標一覧